

第 5 号…平成26年11月

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

関東地域づくり協会からのお知らせ

- 3 平成25年度 優良業務・優秀技術者表彰を受賞しました
関東地方防災エキスパート 情報交換会を開催
- 4 第6回 関東・水と緑のネットワーク拠点百選 13団体を新たに選定
第27回 道のある風景写真コンクール（審査会）
- 5 埼玉県久喜市と大規模災害時等における防災エキスパート支援協定を締結
平成26年度関東ブロック 災害復旧事業技術講習会を開催
- 6 総合地震防災訓練を実施
東京臨海広域防災公園合同訓練に参加
- 7 浦安市総合防災訓練に参加
第5弾 現場見学ツアーに協力しました
- 8 三陸沿岸道路事業促進PPP業務の紹介

社会資本に関する話題

- 9 道路施設の老朽化対策について

プロジェクトK²³

- 10 中川流域 総合的な治水対策の始まり
三郷放水路

関東の河岸めぐり²⁴

- 14 日本橋・築地魚河岸 東京都

関東の土木遺産²⁵

- 16 小倉橋 神奈川県

ピックアップ

- 18 関東の道の駅¹「道の駅」第2ステージへ

会員情報

- 19 新会員紹介・退職者紹介・お悔やみ
編集委員会だより

会員のひろば

- 20 夫婦並んで轆轤(ろくろ)を回す



表紙の言葉

佐多直武氏（元下館工事事務所所長）

日光・竜頭の滝

湯滝を経て奥日光戦場ヶ原を流れてきた湯川が中禅寺湖に注ぐ手前にある滝。男体山の噴火によってできた幅10mほどの階段状の岩場を勢いよく流れる渓流瀑となっている。滝壺付近が大きな岩によって二分されており、その様子が龍の頭に似ていることからこの名前が付けられた。例年、紅葉の見頃は10月上～中旬。

平成25年度 優良業務・優秀技術者表彰を受賞しました

関東地方整備局の優良業務・優秀技術者表彰は、業務への取り組み方およびその成果が優秀であり、他の模範となるものを表彰する制度です。表彰によりさらに技術力が向上し、事業が円滑に推進されることを目的として

います。

関東地域づくり協会では、本年も東北地方整備局を含め、3件の表彰を受けました。

局長表彰

優良業務・優秀技術者

菅谷順一（高崎支部）

H23品木ダム中和処理施設管理支援業務委託
品木ダム管理所



利根川の支川吾妻川は、草津白根山に起因する酸性河川の流入によって酸性化し、地域経済の発展や水利用の大きな障害になっていました。このため、酸性度の高い湯川等に石灰乳液を投入し中和を行う「水質改善事業」を続けています。

本業務は、この酸性水中和処理施設の適正管理を図ることを目的として、中和剤投入量の操作、中和処理施設等の監視および巡視と保全、ならびにダムの巡視支援を行っています。

事務所長表彰

優良業務

用地第一支部

業務：東関東自動車道水戸線道路事業監理業務 25C9
(JV(株)長大、(一社)関東地域づくり協会、
前田建設工業(株))
常総国道事務所

本業務は、東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）（業務対象区間30.9km）における事業計画案の検討・進捗状況管理、工事の早期着工を見据えた工事発注までに必要となる業務の効率的なマネジメントおよび関係機関との協議・調整を行うことにより、円滑な事業推進を図ることを目的とするものです。

当協会は、「用地担当」として、用地リスク情報の把握、分析等による用地取得計画の検討および用地進捗管理、用地調査等業務に対する指導・助言・調整および地元および関係行政機関等との協議等を行いました。

関東地方防災エキスパート 情報交換会を開催

関東地方防災エキスパートは、地震および風水害等の大発生または発生の恐れがある場合に、専門知識を生かして被災状況の迅速な収集把握と通報等、災害対応に関する支援活動を行っています。

当会ではこれらの活動に必要な整備局管内事務所との情報交換会を毎年実施しており、今年度は6月～8月に、9支部で34事務所と情報交換会を開催しました。



情報交換会開催日程

支部名	実施日	関係事務所
水戸支部	7月4日・8日 23日・24日 25日	霞ヶ浦導水、下館河川、 常陸海浜公園、常陸河川国道、 常総国道
宇都宮支部	6月17日・24日 7月15日・18日	日光砂防、鬼怒川ダム統合、 宇都宮国道、渡良瀬川河川
高崎支部	6月10日・25日 7月9日・8月25日	利根川水系砂防、利根川ダム統合、 ハッ場ダム、高崎河川国道
大宮支部	7月23日・24日 29日・30日	北首都国道、利根川上流河川、 大宮国道、荒川上流河川
千葉支部	7月10日・15日 23日 28日・29日	利根川下流河川、関東技術、 霞ヶ浦河川、首都国道、 江戸川河川、千葉国道
東京支部	7月23日・24日 28日	昭和記念公園、相武国道、 東京国道
神奈川支部	7月4日・7日 10日・31日	横浜国道、相模川水系ダム、 京浜河川、川崎国道
甲府支部	7月15日・23日	富士川砂防、甲府河川国道
長野支部	7月25日・30日	長野国道、アルプスあづみの公園

平成26年度 公益事業紹介

第6回 関東・水と緑のネットワーク拠点百選 13団体を新たに選定

「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」では、関東地域において、川・池・湿地・海辺などの「水」、雑木林・草原などの「緑」といった自然環境の保護や共生、再生のために活動している各団体の中から、拠点として選定した団体に対し、さまざまな支援を行っています。

第6回となる今年度は以下の13団体が選定され、これまでの選定団体は延べ87団体となりました。9月28日（日）には、選定証授与式と、選定委員である三島次郎先生



(桜美林大学名誉教授) による環境講演会の他、選定団体の活動報告が行われました。

選定団体名	選定対象地	面積	所在地
足立区本木・水辺の会	本木ワンド及びその周辺	約0.4ha	東京都足立区
NPO法人厚木の川の環境を良くする会	相川・水辺の楽校(相模川)	約3.3ha	神奈川県厚木市
公益財団法人鎌倉風致保存会	十二所果樹園	約5ha	神奈川県鎌倉市
特定非営利活動法人グラウンドワーク西鬼怒	谷川及び周辺の土水路等	約2.1ha	栃木県宇都宮市
越谷市立大袋東小学校	大袋東小学校ビオトープ	約0.09ha	埼玉県越谷市
狛江水辺の楽校運営協議会	狛江水辺の楽校	約15ha	東京都狛江市
株式会社チノー	チノー ビオトープフォレスト	約1ha	群馬県藤岡市
NPO法人ちば環境情報センター	下大和田谷津田	約0.5ha	千葉県千葉市
日本電気株式会社	四つ池	約31.5ha	千葉県我孫子市
野川(世田谷区部)の多自然川づくりを考える連絡会	多摩川水系野川	約3ha	東京都世田谷区
株式会社野田自然共生ファーム	野田市江川地区ビオトープ	約90ha	千葉県野田市
学校法人平岡学園平岡幼稚園	平岡幼稚園の園庭ビオトープ	約0.7ha	神奈川県平塚市
めだかサポーターの会	酒匂川水系の用水路、水田等	約40ha	神奈川県小田原市

第27回 道のある風景写真コンクール(審査会)

人と暮らしを支える道をテーマに、毎年開催しているこの写真コンクール。今回も小学生、中学生、高校生を対象に若い人たちから見た「道の風景」写真を募集しました。

第27回となる今年の審査会は10月20日に行われ、応募枚数は7,059枚、応募人数は3,557人でした。関東の道の駅等で、入賞作品展示会を予定しています。

金賞 受賞者情報	
小学校の部	「道と踏査するスカイツリーかげ」 秋山智哉 埼玉県さいたま市立上小小学校 5年
中学校の部	「親子で横断」 幸田一希 茨城県八千代町立八千代第一中学校 3年
高等学校の部	「雷神の道」 高山大輝 群馬県前橋工業高等学校 3年



埼玉県久喜市と 大規模災害時等における防災エキスパート支援協定を締結

7月22日（火）、当会は埼玉県久喜市と「大規模災害時等における防災エキスパート支援に関する協定」を締結しました。当会では既に、東京都江戸川区、千葉県浦安市、市川市と同様の協定を締結しています。

現在の防災エキスパート登録者821名のうち、埼玉県内には194名が登録されています。これまでに久喜市が所属する利根川栗橋流域水防事務組合主催の水防訓練に協力してきましたが、今回の協定締結により、大規模災害時には防災エキスパートが、河川堤防や道路といった基盤施設の被災状況調査や緊急復旧工事の助言等を、ボランティアとして支援することになります。



久喜市の田中暄二市長(右)

平成26年度関東ブロック 災害復旧事業技術講習会を開催

8月1日（金）当会およびとちぎ建設技術センターの主催により、東京国立博物館平成館大講堂において、関東地方で災害復旧事業に携わる実務者を対象とした災害復旧事業技術講習会を開催しました。

近年、地球上では温暖化等による異常気象がさまざまな災害を引き起こしています。一方我が国では、台風や梅雨前線による大規模な風水害に加えて、地震や火山噴火による被害も発生しています。

公共土木施設は国土の保全や生命財産の保護に欠かせない重要施設であり、これらの施設が災害に遭えば、人々の生活の安定は失われ、社会経済にも甚大な被害をもたらします。被災した施設は早急に復旧しなければな

りません。

この講習会は、災害が起こった場合に、復旧事業の各種申請資料等を検討・作成するために必要な技術・制度などについて理解を深めるために行ったものです。当日は349名の方々に参加いただき、講習会は大盛況のうちに幕を閉じました。

共催：一般社団法人 建設コンサルタンツ協会関東支部
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
関東地区協議会・東京地区協議会
一般社団法人 全国地質調査業協会連合会
関東地質調査業協会
後援：国土交通省関東地方整備局

■ 講義内容

「災害復旧事業制度と災害採択基本原則」
(国土交通省水管理・国土保全局防災課)

「災害復旧事業における留意事項について」
(国土交通省関東地方整備局企画部)

「栃木県の災害について」 (栃木県県土整備部河川課)

「災害復旧広報事例」 (公益社団法人全国防災協会)



総合地震防災訓練を実施

国土交通省関東地方整備局では、9月1日（月）首都直下型地震を想定した総合地震防災訓練を実施しました。それに呼応して、当会と関東建設マネジメント株式会社においても、職員・社員および防災エキスパート登録者の参加により、合同地震防災訓練を行いました。

この訓練は、首都直下型地震等の大規模災害時における当会の防災業務計画が適切かどうか検証し、災害対応能力を向上させることを目的としています。そのため、情報収集や集約、伝達、対処など、シナリオに基づかない、より実際の状況に近い形で行いました。内容は、職員や家族の安否確認および自宅の被災状況等の確認訓練、被災状況報告訓練、関東地方整備局への事務局員等派遣訓練など、多岐にわたりました。

このような総合的な訓練により、職員・社員の防災意識を強化し、防災エキスパートの活動の習熟を図るだけでなく、関東地方防災エキスパート事務局と関東地方整備局の連携・体制の確立を目指しています。



東京臨海広域防災公園 合同訓練に参加

8月4日（月）、東京臨海広域防災公園にて、東京臨海広域防災公園合同訓練が実施されました。同公園は、平常時は憩いの空間として開放されている他、防災体験学習施設「そなエリア」も併設し広く国民に活用されていますが、大規模災害が発生した場合には、政府の緊急災害現地対策本部が設置されます。

この合同（内閣府・昭和記念公園事務所・防災エキスパート）訓練は、大規模災害発生時に速やかに防災初動対応に移行できるよう、関係者が一堂に会して行われたもの。今年度が初めての開催となります。

当日は、「土日祝祭日の14時に東京湾を震源地とする



M7.3の地震が発生、東京23区の震度は6強」という想定の下、情報伝達訓練などを中心に2時間以上に及ぶ訓練が実施されました。訓練後は、参加者による意見交換会も行われました。

本訓練は今後も年1回程度開催される予定です。

そなエリアにて 東日本大震災液状化パネル展を開催

7月1日から31日まで、東京臨海広域防災公園のそなエリアでは、東日本大震災の液状化パネル展を開催しました。液状化の実際とその対応について、家族連れや子供たちに周知する機会となりました。



浦安市総合防災訓練に参加

9月28日（日）、千葉県浦安市の浦安総合公園にて、浦安市総合防災訓練が行われました。訓練は浦安市の主催により毎年催されているもので、「市民体験型」の訓練を中心に、参加者が直接体験できるさまざまなブースを設けています。また、災害時に的確な対応ができるよう、浦安市と防災関係者が防災意識を共有することも目的の一つとしています。

当会は、体験エリアにおいて河川の堤防決壊や台風などの大雨時の浸水対策として行われる土のうづくり、ロープワーク等の体験ブースを設置。また、東日本大震災の被災前・被災後の状況写真や支援活動状況などのパネル展示も行いました。

浦安市職員による土のうづくり体験



ロープワークの体験



[第5弾]現場見学ツアーに協力しました 新東名・さがみ縦貫道JCT工事、日向薬師平成大修理現場見学

関東地域づくり協会では土木学会が創立100周年記念事業の一環として、関東地方整備局や建設会社などの協力の下で企画した土木工事現場見学ツアーに協力しています。このツアーは工事現場の見学を通じて、モノづくりの面白さ、道路や河川のなどの社会資本が果たす役割について一般の方に広く知っていただくことを目的としています。

第5弾は9月27日（土）に開催。一般の方39名が参加しました。東名道・新東名道が連結する伊勢原JCT（仮称）、新東名道と圏央道（さがみ縦貫道）が連結する海老名南JCT、東名道と圏央道が連結する海老名JCTの3カ所の工

事現場を見学しました。また国の重要文化財に指定されている、日向薬師の平成大修理の現場も見学をしました。

当日はバスの中で、当会職員（2名）が道路の整備効果や道路附属施設の役割等を分かりやすく説明し、参加者は工事中の現場見学など貴重な機会を満喫しました。

実施概要

実施回	タイトル	開催日	実施場所	参加者数
第1回	夏休み 親子で学べる“道づくり” 東京外かく環状道路 (千葉県区間)	2013年 8月24日	千葉県 松戸市・ 市川市	20組 41名
第2回	開通前の今だけ “東京港トンネル ウォーキングツアー”	2013年 12月14日	国道357号 大井町一 お台場	48名
第3回	開通前の今だけ “東京港トンネル ウォーキングツアー”	2014年 3月29日	国道357号 大井町一 お台場	46名
第4回	高速道路を歩ける 最後のチャンス “圏央道見学ウォーキングツアー”	2014年 6月8日	圏央道 相模原市一 高尾山	115名
第5回	新東名・さがみ縦貫道 JCT工事と日向薬師 平成大修理現場潜入ツアー	2014年 9月27日	神奈川県 伊勢原市・ 海老名市	39名

※実施の詳細は協会HPに掲載しています



海老名南JCT

伊勢原JCT（仮称）



復興道路事業の完成に向けて 監理業務を遂行しています 三陸沿岸道路事業促進PPP業務の紹介

「三陸沿岸道路事業促進PPP」は、東日本大震災の復興道路の事業期間を大幅に短縮し早期に完成させることを目標に、平成24年度に10工区体制でスタートしました。平成26年度から二期目の業務となり、通算3年目を迎えました。

当会グループ4者JVとして参加している「洋野工区」は、青森県階上町から岩手県久慈市を結ぶ「八戸久慈自動車道」の岩手県側の洋野町を中心とした20.9kmを担当しています。

一期目は当会から事業監理の主任技術者として佐々木弘 元神奈川支部長が担当。二期目は、業務拠点宮古市の三陸国道事務所から施工・用地担当はより現地に近い久慈市の久慈出張所となりました。当会からは施工監理の主任技術者として塚本仁が久慈出張所に常駐して担当しています。

本業務のPPPでは発注者側と緊密な連携をとった業務遂行を求められており、施工監理担当は工事施工にあたって、自治体・東北電力・NTT等との協議や、埋蔵文化財調査・伐採・借地等に係る現地立ち会い、土砂仮置き場の進捗管理、および工事請負者に対する設計・用地（井戸）等さまざまな情報提供が主な業務です。

短い夏も終わり、朝晩の気温は10℃を切るようになりました。今まではまったく環境や仕事が変わり戸惑うことも多いですが、久慈は着がうまいです。これさえあればなんとかやっていけそうです。

機会があれば皆様ぜひ希望していただき、一緒に仕事をしませんか！ やりがいありますよ！

(技術部・専門役 塚本仁)



一期目の業務で「国土交通行政関係功労者表彰」を受賞

受託業務の名称

三陸沿岸道路事業監理業務

履行場所

岩手県九戸郡洋野町種市～久慈市侍浜町 地内

履行期間

平成26年4月1日～平成28年3月31日

土砂仮置き場に関する住民説明会



土工区間の施工

本線上の埋蔵文化財の調査



工務課・用地課との週例会



道路施設の老朽化対策について

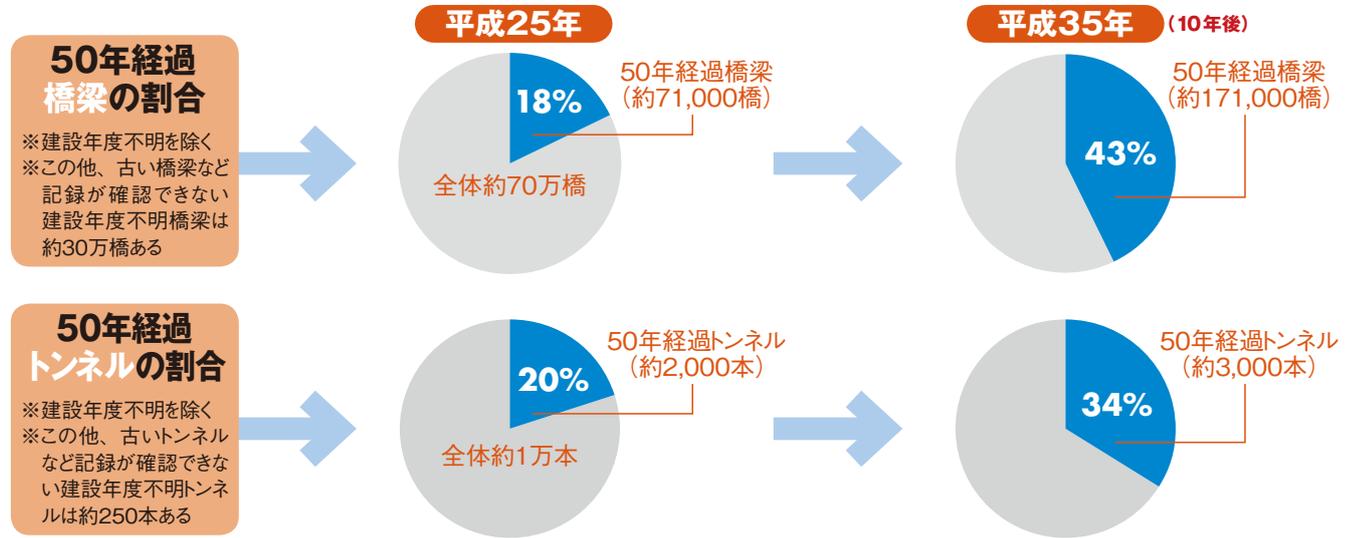
我が国では近年、高度経済成長期に集中的に整備された道路施設の老朽化が急激に進んでおり、今後さらに進行していくことが懸念されています。国・地方ともに厳しい財政状況にあって、これらの老朽化した道路施設の補修や更新に適切に対応していくことが重要な課題となっています。

こうした中、平成25年には道路法の一部を改正する法律が施行され、道路施設の点検に関する基準が省令で定

められるなど、道路管理者による取り組みが示されたところ です。

このたび、改正された道路法の規定に基づき、すべての道路管理者が相互に連絡調整を行い、道路施設の老朽化対策に取り組むことを目的とした「道路メンテナンス会議」が各都県ごとに設置されました。今後は各道路管理者の責任でメンテナンスサイクル（点検→診断→措置→記録）が実施されます。

道路構造物の現状（橋梁、トンネル）



道路法施行規則の一部を改正する省令の概要

○道路法施行規則（昭和27年建設省令第25号）
第4条の5の2
（道路の維持又は修繕に関する技術的基準等）
道路法施行令第35条の2第2項に基づく道路の維持又は修繕に関する技術的基準等その他必要な事項は、次のとおりとします。

① トンネル、橋その他道路を構成する施設若しくは工作物又は道路の附属物のうち、損傷、腐食その他の劣化その他の異状が生じた場合に道路の構造又は交通に大きな支障を及ぼすおそれがあるもの（以下「トンネル等」という。）の点検は、トンネル等の点検を適正に行うために必要知識及び技能を有する者が行うこととし、近接目視により、5年に1回の頻度で行うことを基本

とすること。

② 1の点検を行ったときは、当該トンネル等について健全性の診断を行い、その結果を国土交通大臣が定めるところにより分類すること。

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

③ 1の点検及び2の診断の結果並びにトンネル等について道路法施行令第35条の2第1項第3号の措置を講じたときは、その

〈国土交通大臣が定める診断結果の分類について（告示）〉

トンネル等の健全性の診断結果については、次の表に掲げるトンネル等の状態に応じ、次の表に掲げる区分に分類すること。

内容を記録し、当該トンネル等が利用されている期間中は、これを保存すること。

【施行：平成26年7月1日】

私が携わった
思い出のプロジェクト

中川流域 総合的な治水対策の 始まり 三郷放水路



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、
苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。
第23回は中川と江戸川を結ぶ三郷放水路の計画、建設に携わった
丸山泉さん、関道夫さん、富田和久さんと現場を訪ねました。



丸山 泉さん

昭和27(1952)年入省、江戸川工事事務所副所長を最後に昭和62(1987)年退職



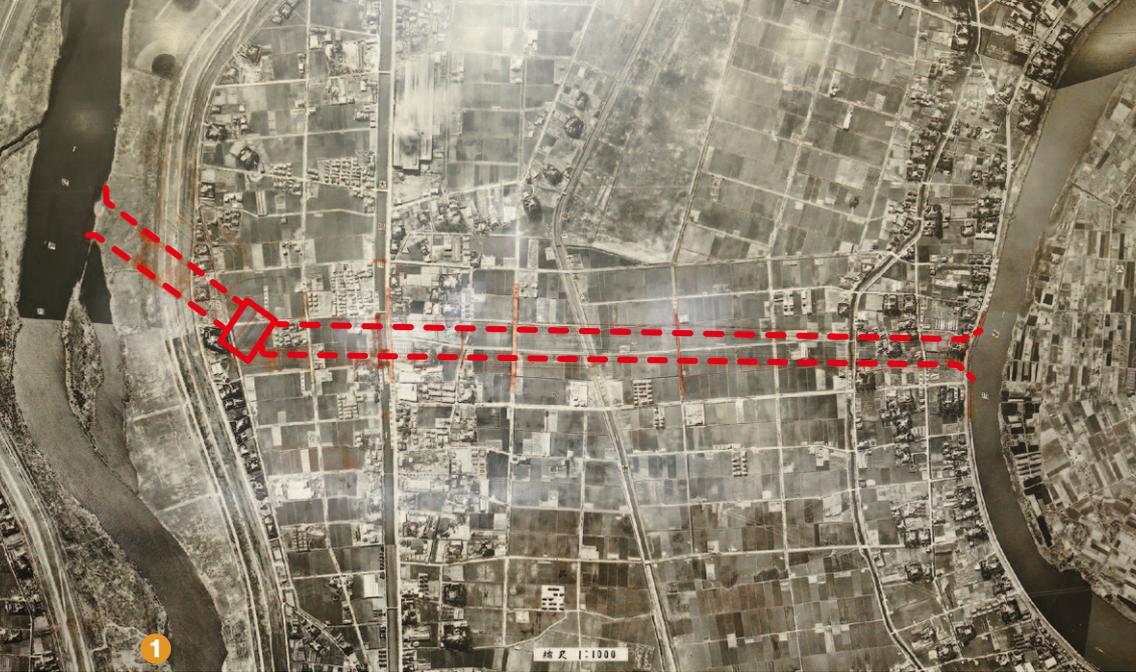
関 道夫さん

昭和36(1961)年入省、荒川上流工事事務所事業計画課長を最後に平成11(1999)年退職



富田和久さん

昭和41(1966)年入省、東北地方整備局河川部長を最後に平成17(2005)年退職



① 施工前はまだ水田地帯が広がっていた。放水路の全長は約1.5km(点線部)。中川と江戸川が最も接近する場所に造られることになった

② 三郷排水機場の屋上から中川方面を望む。辺りは住宅が密集し、様変わりした



中川流域の都市化を支える 三郷放水路

中川は埼玉県羽生市に端を發し、いくつもの支川を集めながら南下して東京湾に流れ込んでいる。流域勾配こうばいの小さい緩流かんりゅう河川で、その流域は周囲を利根川・江戸川・荒川に囲まれた低平な土地だ。江戸時代には氾濫の多かった利根川の改修などにより新田開発が進み、一大穀倉地帯として整備された地域でもある。

水田地帯であったときは、水が溜まりやすく抜けにくいその地形はプラスに働いた。しかし、昭和30年代後半になると事情は変わってくる。この頃から、首都近郊への通勤圏として団地が増えるなどして急激に人口が増加し始めた。しかも、大規模な造成ではなく、水田を埋め立てて宅地にするミニ開発が続く。そうなると水田等に遊水していた水は行き場を失い、徐々に浸水被害をもたらすようになった。特に昭和33(1958)年、36(1961)年、41(1966)年の台風では被害が大きかった。

そこで必要になったのが治水対策である。通常なら下流から河道を開削して川幅を拡げるのだが、三郷より下流地域はすでに都市化が進んで住宅が密集し、これ以上の拡幅はできない。また、上流の埼玉県、下流の東京都の調整役も含め中流域を直轄区域に編入し、中川の治水の抜本策第1号として三郷放水路が建設された。

「江戸川の上流は利根川、その最上流は群馬県。上流の水が江戸川に流れ込むまでには1日以上かかる。この時差を利用し、浸水被害が慢性化していた中川低地部の水を早めに江戸川に吐いてやるのが三郷放水路の大きな役割です」と、計画に携わった富田和久さんは説明する。「三郷放水路は、河川の工事としては珍しく都市計画施

設として位置づけられました。それだけ、地域にとって不可欠な重要施設として位置づけられたということです。さらに、放水路の着工後、中川と支川である綾瀬川の流域には、河川改修や貯水池の設置、土地利用の適正化など流域全体で治水対策を考えていく“総合治水対策”が適用されることになりました。このような地形と急激な都市化という状況下で、河川の改修だけで洪水対策をするには無理があったからです」(富田さん)

三郷放水路の目的は中川から江戸川への洪水排水だけではない。人口増加により汚濁されていた中川下流部の水質浄化、水利用の増大に伴う江戸川の水利用の安定化、地域内を通る大場川と第二大場川流域の排水など、実にさまざまな役割を果たしているのである。

富田さんは、昭和41(1966)年に江戸川工事事務所(当時)に入所し、昭和43(1968)年には調査課に所属していた。「三郷放水路建設の前段階として、中川の水質調査、大場川の一日の水量変動の計測などを行いました。昼間はバイクで現地調査に走り回り、夜は野田の事務所で、課員の中で誰が一番早くできるか、計算尺とタイガー社の手回し計算機で水理計算を競い合ったりしていたのを覚えています」と当時を振り返る。

軟弱な地盤に、 大型の建造物を建てるのが難問

三郷放水路の建設は、昭和47(1972)年に始まった。まず取りかかったのは放水路そのものではなく、付属する施設群である。大きな施設としては東端の三郷排水機はいすいき場とそのすぐ手前に位置する大場川水門、西端の三郷水門。さらには放水路上の橋もある。丸山泉さんは昭和49(1974)年4月から昭和53(1978)年3月まで建設監督官



③ 20m³/sポンプ設置の様子。高い技術を持った専門の技術者が設置に携わった

④ 排水機場内のポンプ室。5台のポンプの排水量は合わせて200m³/s。天井には点検などの際にポンプを吊り上げるクレーンも備えている



⑤



④

⑤⑥ 昭和54(1979)年に設置された50m³/sの1号ポンプ。⑤はそのインペラー(羽根)
(⑤左から丸山さん、故森淳江戸川工事事務所長、倉持好一工務課長、故弓削弘機械課長、関さん)



⑥

を務め、関道夫さんは昭和50(1975)年5月から昭和52(1977)年3月まで監督官付として丸山さんの下で働いた。「私が着任したときは、すでに排水機場本体の高さ約15mのうち約3分の2くらいまでコンクリートの打設は済んでいました。床板は幅約35m×長さ約100m×厚さ2mのマスコンクリートで、目地のない一体の構造物として施工することになっていました。施工能力には限界がありますから、4回に分けて打設することにしたのです。それでも日の出と同時に始まって、作業はナイターになりました。その間、コンクリートミキサー車が数珠つなぎで来ていたと前任者から聞いています」と丸山さん。

この機場の基礎杭は鋼管で、機場の長辺両側に水平抵抗力として斜杭を、その他の鋼管杭の先端には閉塞効果の高いリブ(井形)を採用した。また、軟弱地盤対策として、基礎地盤を2m、良質土と入れ替えたり、設計委はさまざまな工夫が盛り込まれていた。当時を思い返す丸山さんの腕には、思わず力が入る。

「この機場の建設にあたって最も留意したのはコンクリートの養生です。それから機場建屋や排水ポンプの据え付け工事、放水路に架設する橋梁や道路工事等、河川工事ではあまり経験しない作業が多かったのもこの現場の特徴でした。とにかくいろいろな仕事がありましてね。先輩に『ダムと砂防以外は全部あるな』と言われたものです。このような超ジャンボな構造物に従事したことが懐かしく思い出されます」(丸山さん)

関さんは現場の技術者たちの仕事ぶりを見て、建築と土木の仕事の違いを肌で感じたという。

「窓のサッシを入れたり、外壁にタイルを貼ったりという作業は、土木ではあまり経験しないもの。土木よりも許される誤差は小さいし、設計図に忠実。その仕事ぶりは勉強になりました」(関さん)

排水機場の建屋の外壁には、キラキラ光るパールタイルを貼った。「外から見るとそれはきれいだね。“三郷ホテル”なんて言われたんですよ」と丸山さん。太陽に輝く排水機場を懐かしむように、お二人は顔を見合わせる。

丸山さんにとって特に思い入れが強いのは、大場川水門と「伏せ越し」だ。江戸川と中川の間に位置する大場川は放水路に遮られるため、放水路の下を通し下流に流す伏せ越しを設置することになった。

施工の順としては、まず伏せ越しを完成させ、水門の施工はその後である。大場川の伏せ越し区間を上流と下流で締め切り、大場川の水は第2大場川専用水路を迂回して第2大場川へ流した。伏せ越しの工事は土留工に腹起こし・切ばりを設置しながら10mほど掘削するのだが、超軟弱地盤のため途中から鋼矢板の継ぎ手部から濁水が噴出し危険な事態となった。そこで切ばりを増設したり見張り人を配置したり、土圧計なども設置して注意深く作業を進めた。

伏せ越しの基礎杭は場所打ちコンクリート杭(長さ44m、直径1200mm)であり杭頭処理の作業がある。ま



7 排水時の対岸への影響を抑えるため、江戸川との合流角度は45度にした

8 大場川水門。手前の網状の部分から地下の導管へと落ち、放水路の下を通って対岸へ流れる



9 三郷放水路完成直後

10 放水路には地域の分断を解消するため7本の橋を架けた。多くの人や車が行き交い、今もその役目を果たしている

た鉄筋・型枠の段階検査もあり、そのたびに土留工の中に降りなければならない。「よい気分ではありませんでしたね。幸い工事は事故もなく完了しホッとしました」と丸山さん。しかし、伏せ越しが完成した後、隣接して施工中の大場川水門上流締切(鋼管矢板)の大場川水位と水門基礎面の差が5m以上にも達し、恐れていた事態、ボイリングが夜間に発生。作業場内の建設機械等が水没した。その後ボイリング箇所の復旧に大変苦勞したと、昨日のここのように話す。

伏せ越しが完成して大場川の通水を開始したところ、上流から大量のゴミが流れてきた。そのゴミが伏せ越しのスクリーンに付着し、除去作業にも苦勞した。特に雨が降った後はさまざまなゴミが多かったという。なお、当初の計画に除塵機の設置計画はなかったが、現在は設置されている。

綾瀬川・中川・江戸川、放水路の連携で浸水から守る

昭和54(1979)年3月、排水機場には50m³/sのポンプ1台、30m³/sと20m³/sを1台ずつ設置した時点で、三郷放水路は暫定完成となった。

「ポンプを設置するために施工を担当した会社が連れてきた技術者が、見事な腕前だったのを覚えています。以前はどんな現場で働いていたのか尋ねたら、原子力発電所だと言っていました。それほど緻密に施工できる技術

を持った人が来ていた。1台で50m³/s排水するポンプは、当時、東洋一と言われた規模ですから、相当気合いが入っていたのでしょ」(関さん)

平成6(1994)年そして平成8(1996)年に50m³/sのポンプが1台ずつ増設され、三郷排水機場はついに完成を迎えた。現在の排水能力は1秒間に200m³。台風などの中川増水時には全ポンプを動かして江戸川に排水する。

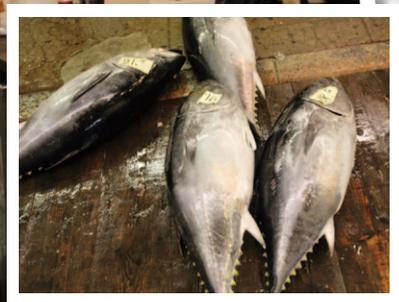
暫定完成から約35年。昭和48(1973)年にJR武蔵野線開業、平成17(2005)年にはつくばエクスプレスも開通した。排水機場から中川方面を望めば、東京外郭環状道路が放水路上を横切る。東京都心部への通勤圏としてますます居住者が集まっている。

富田さんは、江戸川河川事務所の工務第一課長になった平成7(1995)年、付近の住民の方々を集めて排水機場を公開したそうだ。「目立つ建物ですが、皆さん、中がどうなっているのか分からない。ポンプの断面図も、垂れ幕にプリントして、クレーンで吊り下げて見せたんですよ。こんなふうになっていたのか、こういう働きをしていたのかと驚きの声が上がっていました。地域の方々にももっと身近に感じてもらえたらと思いますね」(富田さん)

三郷放水路の後、綾瀬川放水路が建設され、さらに平成19(2007)年には首都圏外郭放水路が完成。これらの連携により、中川流域の浸水被害は格段に減っている。宅地開発がまだまだ続く中、流域の治水対策は一層大きな意味を持つことになるだろう。



江戸東京の食を支える 日本橋・築地魚河岸



かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸です。それらの河岸の歴史と現在を訪ねるシリーズ。
第2回は日本橋に端を登し現在は築地で栄える魚河岸です。

400年以上の歴史を持つ魚河岸

朝5時。すでに築地魚河岸は業者や運搬車が忙しく行き交っています。築地魚河岸の正式名称は東京都中央卸売市場築地市場です。同市場が開場されたのは約80年前のことですが、築地魚河岸の歴史は江戸時代まで遡ります。

江戸時代初期、1603（慶長8）年に江戸幕府を開いた徳川家康は、御膳所に魚を納めさせるために大阪の佃村と大和田村から江戸に漁師数十名を呼び寄せました。漁業の権利を得た漁師たちは、日本橋から江戸橋にかけての日本橋川沿いで荷揚げした鮮魚などを幕府に納めていました。後に漁

師たちは幕府の許可を得て、残った魚を売るようになります。それが築地魚河岸の前身である日本橋魚河岸の始まりです。

日本橋川に運搬された鮮魚は、河岸の棧橋に横付けした平田舟の上で取り引きされた後、納屋の店先で売られました。一日千両といわれるほどの繁盛ぶりだったようです。

関東大震災後に日本橋から築地に移転

大正に入り、日本橋魚河岸は転機を迎えます。国は衛生的で公正な取り引きによる価格と品質の安定を目指し、1923（大正12）年3月に「中央卸売市場法」を制定しました。全国に続々と中央卸売市場が誕生していったのです。日本橋魚河岸については東京市が指導、運営することとなり、東京中央卸売市場開場の計画が進みました。

しかし同年9月、関東大震災が発生。関東の至る所で火災が起こり、日本橋魚河岸も壊滅的な打撃を受けました。魚河岸の移転を余儀なくされたのです。震災後、東京市は芝浦に仮設市場を設けましたが狭さや交通の便が悪いため、築地



日本橋の中央に埋め込まれた日本国道路元標。ここが国内諸街道の起点

日本橋魚河岸記念碑。関東大震災後まで江戸の台所としてにぎわった



(左) 大正時代の日本橋北東の魚河岸(日本橋から見た様子)。左側に見えるのは魚納屋、奥は江戸橋(中央区郷土天文館「タイムドーム明石」所蔵)
(右) 同じ位置から見た現在の日本橋川



魚河岸水神社遷拝所。築地市場の守護神として魚河岸の人々の崇敬によって大切に守られている

タイムドーム明石(中央区立郷土天文館)。郷土資料の常設展示などを行っている。「日本橋と魚河岸」という展示もある



勝鬨橋から見た築地市場隅田川岸壁。各地から新鮮な魚介類が集まる



荷を降ろし帰っていく漁船

への移転を決めました。その後、1935(昭和10)年2月ようやく築地に東京中央卸売市場が誕生したのです。当時、生鮮品の運搬には隅田川を利用した舟運と鉄道(築地市場引込線:現在は廃線)が使われていたといえます。

戦後、高度経済成長期を迎えると東京の人口は一気に増加。漁業技術や輸送方法の発達に伴い、築地市場には全国各地から新鮮な魚介類が集まるようになりました。こうして首都圏の食を支える市場へと発展していったのです。

現在、築地市場には一日約1,800tもの水産物が取引されており、今でも輸送には一部舟運が使われています。その取扱数量は世界でも最大級です。江戸時代の漁師たちが築いた魚河岸は世界に誇る市場として発展し続けています。長い歴史を誇る築地市場ですが、現在豊洲地区への移転が計画されています。日本橋魚河岸以来の歴史は豊洲でどのように引き継がれていくのでしょうか。



東京支部
出口瑠璃子さん

築地市場に来たのは初めてです! 場内、場外とも外国人観光客が多くとても驚きました。1回来ただけでは物足りないくらい、寄りたいたところがまだまだあります。ここなら夕飯のおかずも困ることはないですね(笑)。



木橋の流失を機に 小倉橋の架設工事が始まる

相模川は神奈川県で最長の河川です。山中湖（山梨県）を源流とし、相模湖、津久井湖を経て、緩やかな流れに切り替わる開けた地点（小倉地区）に、4連続アーチの小倉橋（旧小倉橋。以下同）が架けられています。名橋として親しまれる小倉橋は、『かながわの橋100選』や『かながわの景勝50選』に選ばれており、昭和13（1938）年に完成しました。

小倉橋が架かる小倉地区は、古くから交通の要衝として人々が集まりました。江戸時代、相模川には八王子方面と往来するための「小倉の渡し」が置かれ、多くの人や船でにぎわったといえます。小倉の渡しは大正時代まで続きましたが、次第に陸上交通が発達し、人々は橋梁の架設を強く望むようになりました。

そこで昭和2（1927）年、県の補助金で木造の橋が架けられることとなります。しかし木橋は強度が弱く、河川が増水するたびに流失を繰り返したため、周辺村落は県に、より強固な新橋の架設を求めました。そうして昭和11（1936）年12月、小倉橋を架設することが決まったのです。

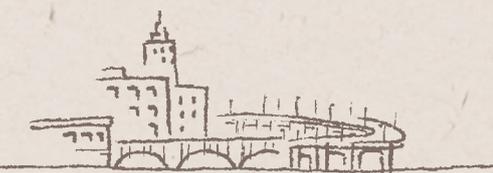
ちょうどその頃、相模川下流には初代湘南大橋（国道134号）が完成しており、そこで使われた枠型や支保工は、小倉橋の架設工事で再利用されました。工事が始まって半年、相模川では洪水が発生し、工事中の井筒が傾いたり仮橋が流されてしまいます。難題続きの工事でしたが、小倉橋は2年で完成しました。人力で工事が進められたといえますから、その早さには驚かされます。工事に携わった人々の熱意や住民の思いがひしひしと伝わってきます。

50年以上経っても衰えない 確かな設計と施工技術

小倉橋は、鉄筋コンクリート製の4連続アーチ橋です。橋長は176.6m、幅員は4.5mあります。アーチ橋にしたのは、景観に配慮したこともありますが、昭和初期には、全国的に鉄筋コンクリートアーチ橋が採用され始めていたことも一つの要因です。

小倉橋は昭和時代を通じ、地域の人々の交通を支えます。しかし昭和後期には交通量が増加。幅員が狭く車のすれ違いが難しかった小倉橋では、交互交通を余儀なくされ、通勤ラッシュ時や観光シーズンには渋滞する状況が続いていました。そこで住民の要請により、小倉橋の

新小倉橋から見た
小倉橋



関東の土木遺産 第23回

4連続アーチが美しい

小倉橋

神奈川県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされるのが選奨土木遺産。関東地方にも多く残るそれらの選奨土木遺産を訪ねての旅。第23回は神奈川の名橋として親しまれる小倉橋です。



新旧の小倉橋が重なり、ダイナミックな印象を与える。
新小倉橋は小倉橋や周囲の自然に配慮し設計された



100m上流に片側二車線、歩道付きの新橋を架設することが決まったのです。平成元年に着工し、完成まで11年、さらに5年後の平成16(2004)年に開通しました。新橋は古い小倉橋との調和を考慮して設計されています。新旧の小倉橋を下流側から眺めると、2つの橋梁が見事に重なり合い、美しくダイナミックな印象を与えます。

もともとは架け替えの計画でしたが、小倉橋の耐荷力を調べたところ、状態は極めて良いという結果が出ます。調査は、砂利を満載したダンプトラックを並べる静的試験、ダンプトラックを走らせて強度を調べる動的試験、配筋の状態など、細部にまで及びました。その結果「設計、施工がしっかりしていて、このまま保存して大丈夫である」(小方武雄『県土は子孫からの預かりもの——若き日の土木技術者の挑戦と夢』神奈川新聞社)という結論に至ります。小倉橋は、架橋からすでに70年が経過しておりますが、架設当時と何ら変わるところがありません。

その後、新橋は「新小倉橋」と名付けられたので、小倉橋は「旧小倉橋」と呼ばれるようになりました。小倉橋は主役の座は退きましたが、車の往来は絶えず市営バスも走るなど、現在もこの地域になくてはならない存在です。

相模原市の 新たな観光資源として活用する

平成20(2008)年、小倉橋は選奨土木遺産に認定されました。元選奨土木遺産選考委員、当協会元理事の小方武雄氏は、認定された理由をこう話します。

「一つ目は橋そのものがとても美しいところです。アーチのライズ(高さ)とスパン(支間)の比のバランスがよく、とてもきれいです。二つ目は自然に違和感なく溶け込んでいるところ。三つ目は先述のように、設計と施工が正確でしっかりしているところ。それらが評価されたのでしょ」

地域の人々に愛され親しまれる小倉橋は、近年、新小倉橋とともに、相模原市の新たな観光資源として注目を集めています。毎年7月下旬から8月中旬にかけては、新旧小倉橋のライトアップや「小倉橋灯ろう流し」を開催しており、同期間には、小倉橋の景観を募る「小倉橋フォトコンテスト」も行っています。これらの催しは県外の人にも大変好評で、毎年多くの観光客が訪れています。新旧小倉橋は道路橋としてだけではなく、相模原市の観光をより一層盛り上げる大切な役割も果たしているのです。

アーチを支える柱にはさらに小さいアーチが見える。細部までこだわったデザインが特徴的だ

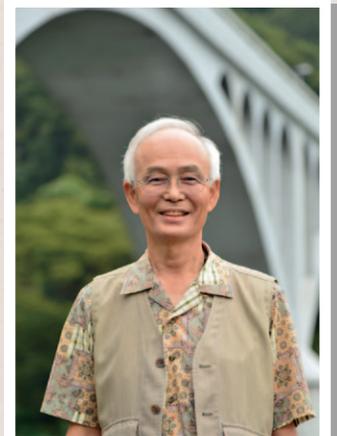


建設は主に人力で行われた。型枠や支保工などは、初代の湘南大橋のものを再利用した

2008年に土木遺産に認定された。相模川八景にも指定されている



今回お話をくださった小方武雄さん。土木学会選奨委員を務めた



小倉橋は幅員が狭いため一車線交通になっている。新橋の架橋以前は渋滞が発生していた

関東の道の駅

「道の駅」 第2ステージへ

各地域で道路利用者の休憩所としてだけでなく、情報発信や交流の場として多くの人々に親しまれてきた「道の駅」。現在、関東甲信地方には156の「道の駅」があります。このシリーズでは、その中から特徴ある「道の駅」を紹介します。

「道の駅」は平成5年に創設された制度で、全国で1040駅（平成26年10月末現在）が登録されており、道路利用者の休憩、情報発信、地域連携の場として発展してきました。

今では「道の駅」自体が目的地となり、地域の特産物や観光を生かして人を呼び、地域に仕事を生み出す核として独自の進化を遂げ始めています。

当初は、道路利用者へのサービスが中心でしたが、近年は防災・観光・農業・福祉・文化など、地域の個性、魅力

を生かしたさまざまな取り組みがなされています。国土交通省では、制度発足から約20年を経て、「道の駅」第2ステージと位置づけ、「道の駅」地域の問題を解決するような「開かれたプラットフォーム」であるという特徴を生かした施策を展開していくこととしています。

「協会だより」では次号より、関東甲信地域の特徴ある「道の駅」を順次取り上げてご紹介します。

関東甲信地域1都8県の道の駅	
茨城	11
栃木	22
群馬	30
埼玉	19
千葉	24
東京	1
神奈川	2
山梨	19
長野	28
関東地方整備局管内合計	156 駅



全国各地域の道の駅	
北海道	114
東北	144
関東	156
北陸	74
中部	121
近畿	126
中国	96
四国	83
九州	118
沖縄	8
合計	1040 駅

※長野県については、上記の他に南信地域で11駅登録

「道の駅」第2ステージへ（具体的な取り組み例）

- ①「道の駅」相互、設置自治体、駅長など関係者の連携強化
- ②「道の駅」ブランドの維持（登録更新制度、ランキング、プレミアム認定など）
- ③各省庁と連携した、既存の「道の駅」への再投資、個性ある取り組みへの重点支援（防災機能強化、EV充電器、外国人旅行者への案内など、新しいニーズへの対応）



会 員 情 報

平成26年7月1日～
50音順・敬称略

新会員をご紹介します 新しく12名の方々が入会されました。これからよろしくお願いたします。

氏名	現勤務先
秋山 幹雄	
小田 實郎	(一財) 公共用地補償機構
金子 剛	大日コンサルタント(株)
小林 正典	(一財) 経済調査会
酒井 宏美	(公財) 河川財団
佐藤 利彦	日本ユーティリティサブウェイ(株)

氏名	現勤務先
菅谷 昭彦	(一財) 公共用地補償機構
須合 力	(一社) 日本道路建設業協会
瀧浪 慎一	日本工営(株)
田村 俊彦	(株) 長大 東京支社
堀部 正文	(公財) 河川財団
三浦 仁	

職場を去られた方をご紹介します 下記4名の方々が職場を去られました。

氏名	勤務先
飯田 剛士	大日コンサルタント(株)
唐澤 尚紀	五洋建設(株)

氏名	勤務先
高木 良雄	(一財) 先端建設技術センター
和田 三男	(株) 森組

お悔やみ申し上げます 7名の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
中島 昂	平成26年7月	宇都宮国道 出張所長
直井 健司	平成26年8月	常陸海浜公園 課長
上田 力	平成26年8月	横浜国道 副所長
菊池 貢二	平成26年9月	東京国道 出張所長

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
館澤 三郎	平成26年9月	利根川上流 副所長
藤代 眸	平成26年10月	鬼怒川ダム統合管理 事務所長
宮原 正廣	平成26年10月	高崎河川国道工事施工管理官

メール情報サービスのご案内

今年度より会員を対象とした講演会の開催案内、会員情報等のメールによる情報サービスを行っています。

未登録の方で情報サービスを希望される方は、右記にて登録をお願いします。

登録先・窓口

一般社団法人関東地域づくり協会

総務課 高橋 順一

TEL : 048-600-4113

メールアドレス : takahashi13@kt-chkd.or.jp

編集委員会だより

2014年11月

「秋 風に誘われて、プチ旅へ!」 「自分らしく秋を楽しむ、こころウキウキ、ワクワクを!」 今日届いたばかりのファッション情報誌のキヤッチコピー。

うまい。私、そんな気分になってきたもの。さらに1ページめくれば、「旅に1着きれいなプリントを!」なんて、購買意欲をかき立てる見出しと洋服の写真。空想の世界――全開。

リュックは少し華やかなものがないかな。おしゃれな帽子を少し斜めに、荷物は極力軽くして行こう。でも、飲み薬、目薬は絶対忘れないように持って、靴は歩き疲れないように履き慣れたものにしなれば。

電車の中では窓際に座り、今読みかけの本の続きを読もうかな。

そうだ、朝夕冷えるから、風邪をひかないようにマフラーも一枚入れて……。

アレ、ここまでくると、現実には引き戻されてくる感がありますね。

会員の皆さまには、秋のひとつとき、いかがお過ごしでしょうか。(編集委員 Y・T)

編集委員

[関東地域づくり協会]

飯田芳夫

泉達也

川部和人

櫛引繁雄

高橋順一

高橋芳子

仲川博雄

八木澤和人

[会員]

小林豊((株) 大本組)

田中良彰(大成建設(株))

会員のひろば

このページは
 会員の皆さまの
 投稿によるページです

陶芸工房にて絵付けの作業中



2人初めての
 連鉢



松竹梅の花瓶

「カルチャースクールを見に行こうよ」

8年ほど前だったと思う。市の広報欄のカルチャースクールに関する記事を覗き込んでいた妻からの提案だった。書道・絵画・ダンス・オカリナ……と、いろいろな習い事が並び、「初心者歓迎」の文字が躍っていた。土曜日のまったりとした午前の時間だったこともありあまり気乗りはしなかったが、出掛けるのもいいかなと思いついて軽い返事で答えた。

当時は、職場内の管理職向け研修カリキュラムでもライフワークバランスに関する項目が盛んに盛り込まれていた。弘済会、現在の関東地域づくり協会からも、個人向け通信講座での資格取得に関する資料が配布され、「あと数年後」の文字が否が応でも目に入る状況にあった。「今後の人生をどう考えるのか」「何かできる能力を身につけましょう」「老後の資金計画は?」と、現役の時からしっかり準備してかかるように呼び掛けられていたのかもしれない。

ともかく、物見遊山の2人でカルチャースクールの窓口を通り、視線の先に最初に飛び込んできたのが「陶芸教室」の様子だった。

「やってみませんか?」「覗いてみるか?」

しかし、そこでは十数人の老若男女が、脇目も振らず一心不乱に作陶していて、とても私たちが入っていける雰囲気ではない。それを感じ取ってか、先生とおぼしき方から「ここは騒々しいので、ゆっくりできる工房にいらっしやいませんか?」と声を掛けられ、地図を渡された。

連鉢を作る

後日、教室に行ってみると、即本番であった。

- ①泥んこねり
- ②ガーゼ生地の上で引き延ばす
- ③石膏型で2つのお椀作り
- ④粘土で紐作り
- ⑤2つのお椀を粘土で接着
- ⑥紐作りで取っ手をつける
- ⑦(1週間後に素焼きを目にする) 絵付けをして釉薬をかける

夫婦並んで 轆轤を回す

西井浩三

元関東地方整備局東京国道事務所 副所長



取っ手もいい抹茶茶碗

⑧本焼きされ、完成品のお目見え

世界に一つだけの作品のできばえを、お互いに見詰めて最初は多少褒め合いもしたことを思い出している。

それからは次々(下の順番で)と悪戦苦闘で課題に取り組み現在に至っている。

■蓋物作り

お香入れ

■手回し轆轤

湯のみ、ご飯茶碗

■電動轆轤

急須

花瓶(30センチ立ち上げる)

花瓶(胴を膨らませて大型)

花瓶(胴を細くつる首に)

30センチ以上の大皿

■その後は自由に応用編

夫婦で隣り合って轆轤を回す

近頃では菊練り(粘土の中の空気を抜いていく作業で菊の花形に自然となる)もできるようになり、今度の作品ではこの程度の硬さが適当であるなど、土の感触がやっと分かってきて泥んこ遊びがとても面白い状況である。抹茶茶碗などを作る過程の中で、その歴史に触れたり、物の見方が多少理解できたり、現代に通じる用語(見込みがよい……将来が期待できるときに見込みがあるなどと使う)の本質が分かったり、とても勉強になることもあったりもする。

これから年老いてゆく夫婦が、隣り合って轆轤を回し、そこはどうかと貶したり、褒め合ったりして時間を過ごしているのは、人から見れば滑稽に映るかも知れない。時には貰ってくださるという方に、「何か作ってさしあげたいが要望は?」などとゴリ押ししたりもするわけ、いろいろな作品が私たちの手を離れていつている。

今後ともそうだが、釉薬も作れるわけではない、焼窯もなく焼成は先生任せなので、大口叩いて「私たち陶芸やってます」などと言うつもりはない。ただ、土いじりをしている時間は世の中の煩わしさ、雑念から解放され、とても心地よい疲れを感じていられるので居心地がよいのである。

退職して2年間は介護に従事し、老父母を自宅で看取ることもできたし、さあ〜と……。今後のライフワークバランスを考えると、もう一仕事もしてみたい、油絵の道具もあるにはあるし、今までやったことのある弓道や木版画なども復活させたいなどと思いは山々である。